

教育委員会による学校訪問



教育委員会 委員
池田 清貴
いけだ きよたか

三鷹市教育委員会では、毎年、いくつかの学校を訪問し、校長先生から学校の状況をうかがい、実際に全クラスの授業をみせてもらっています。

学校訪問をするといういろいろなことを感じます。子どもたちが落ち着いてじっくりと学んでいるぞ、先生方が協力しあって、よく練られたいい授業をされているぞ、などと頼もしい思いをすることがほとんどです。でも反対に、あれ、何だか子どもたちに元気がないぞ、先生方はお忙しいのかな、などと思ったりすることもあります。私たちは、そうした思いを校長先生に伝えて、次に訪問するときは楽しみにしながら帰ります。

私が学校訪問をしてきた中で、印象深かった授業にこんなものがありました。黒板に、何やら難しそうな漢字がたくさん書かれた模造紙がはってあります。「今有雉、兔同籠、上有三十五頭、下有九十四足。問・雉、兔各幾何？」

漢文の授業ではありません。小学校の算数の授業です。先生が、この中で分かる漢字はありますかと問いかけると、子どもたちから、頭、足などど声が上がります。そして、先生からヒントをもらいながら、キジ、ウサギという漢字が分かり、そのうちに子どもたちは、キジとウサギの数が問われていることに気付きます。「キジとウサギが同じカゴの中に入っていて、頭は35個、足は94本。さて、キジとウサギは何匹？」という問いです。そう、つるかめ算の授業です。この題材は、後から調べたところ、中国の南北朝時代に書かれた「孫子算経」という算術書の中にある問題だそうです。子どもたちは昔の中国の子どもたちもつるかめ算を学んでいたことを聞いて驚き、学びを深めていきます。とても楽しい授業ですね。先生の周到な準備に脱帽します。

このような授業との出会いを楽しみにしながら、今月もまた学校に足を運びます。

池田清貴氏は、平成30年5月26日付けで教育委員会委員に再任されました。池田委員は2期目で、任期は3年間です。

【略歴】

弁護士（東京弁護士会所属）。現在、東京都児童相談所非常勤弁護士、中央大学法科大学院非常勤講師、東京弁護士会子ども的人権と少年法に関する特別委員会委員、日本弁護士連合会子どもの人権委員会委員、日本弁護士連合会家事法制委員会委員などを務める。